

# 第4章 まちづくりの基本方針

## 4-1 目指すべき都市の骨格構造

立地適正化計画が目指す将来の都市の骨格構造は、五戸都市計画区域の整備、開発及び保全の方針（五戸都市計画区域マスタープラン）における目標とする市街地像（「都市拠点」などの配置、機能の位置づけ）を踏まえ、利用者のニーズに対応した公共交通ネットワークにより子育て、図書館、商業などの都市機能の集約された中心地とその他エリアが連携したコンパクトシティ・プラス・ネットワークによる骨格構造を目指します。

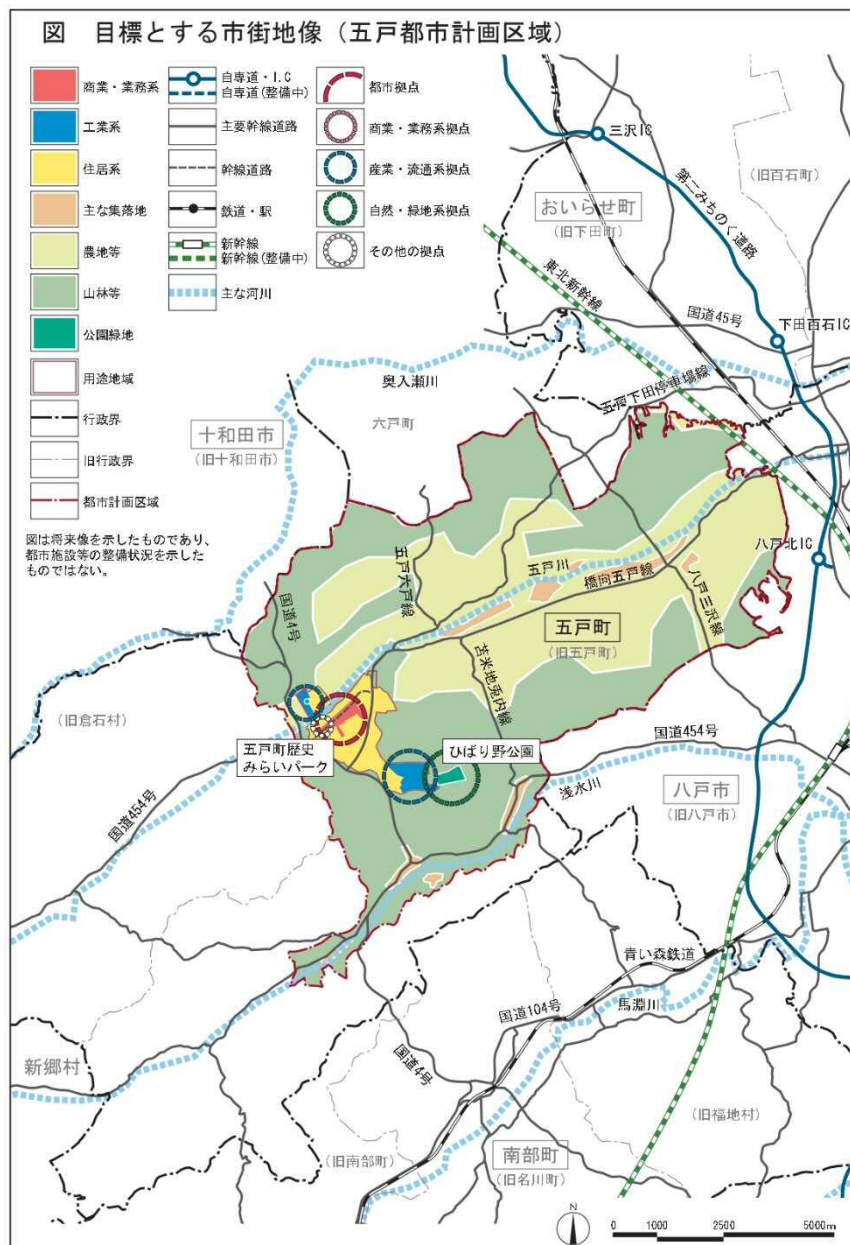


図 町の骨格構造

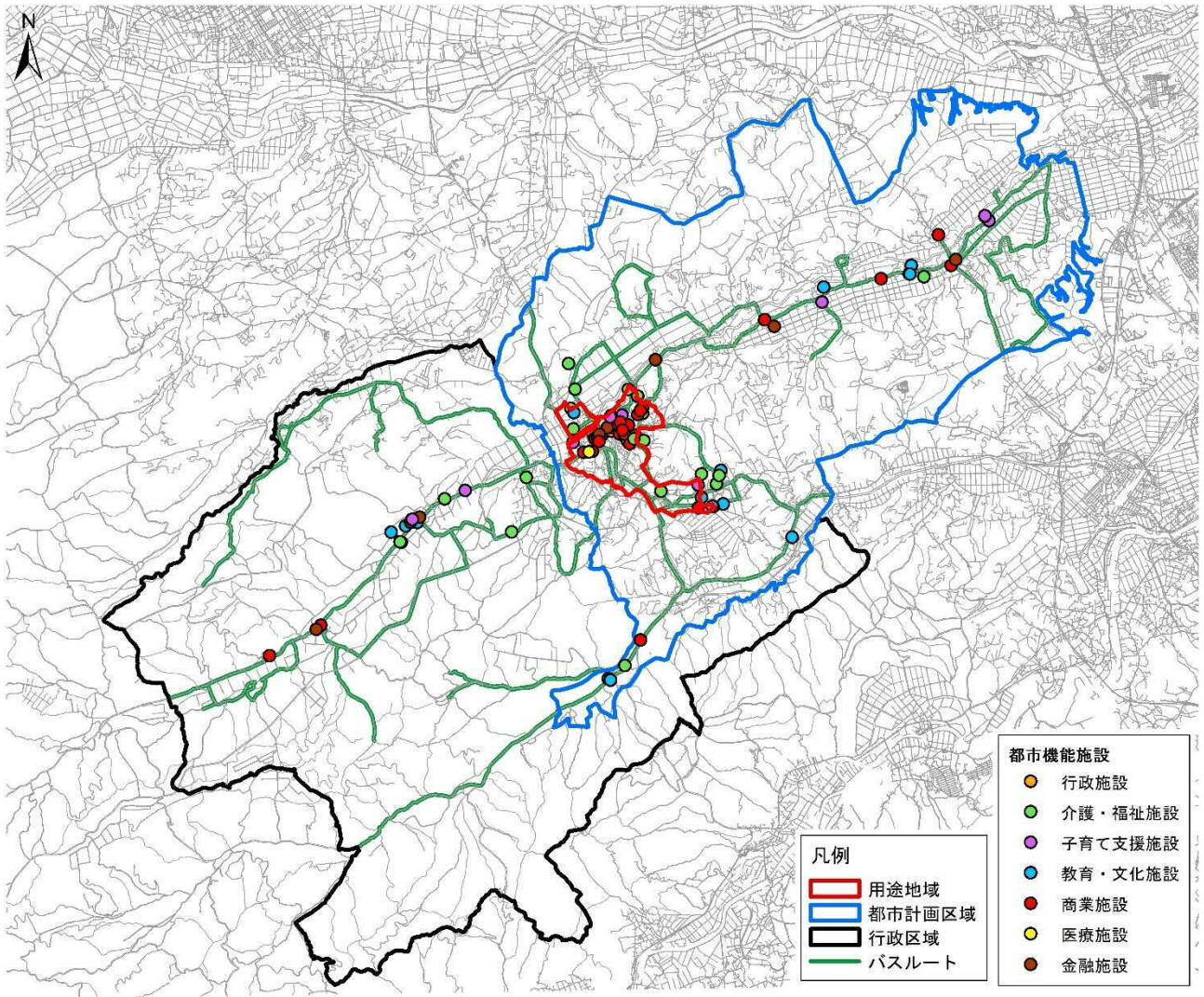


図 公共交通ネットワークと都市機能施設の分布状況

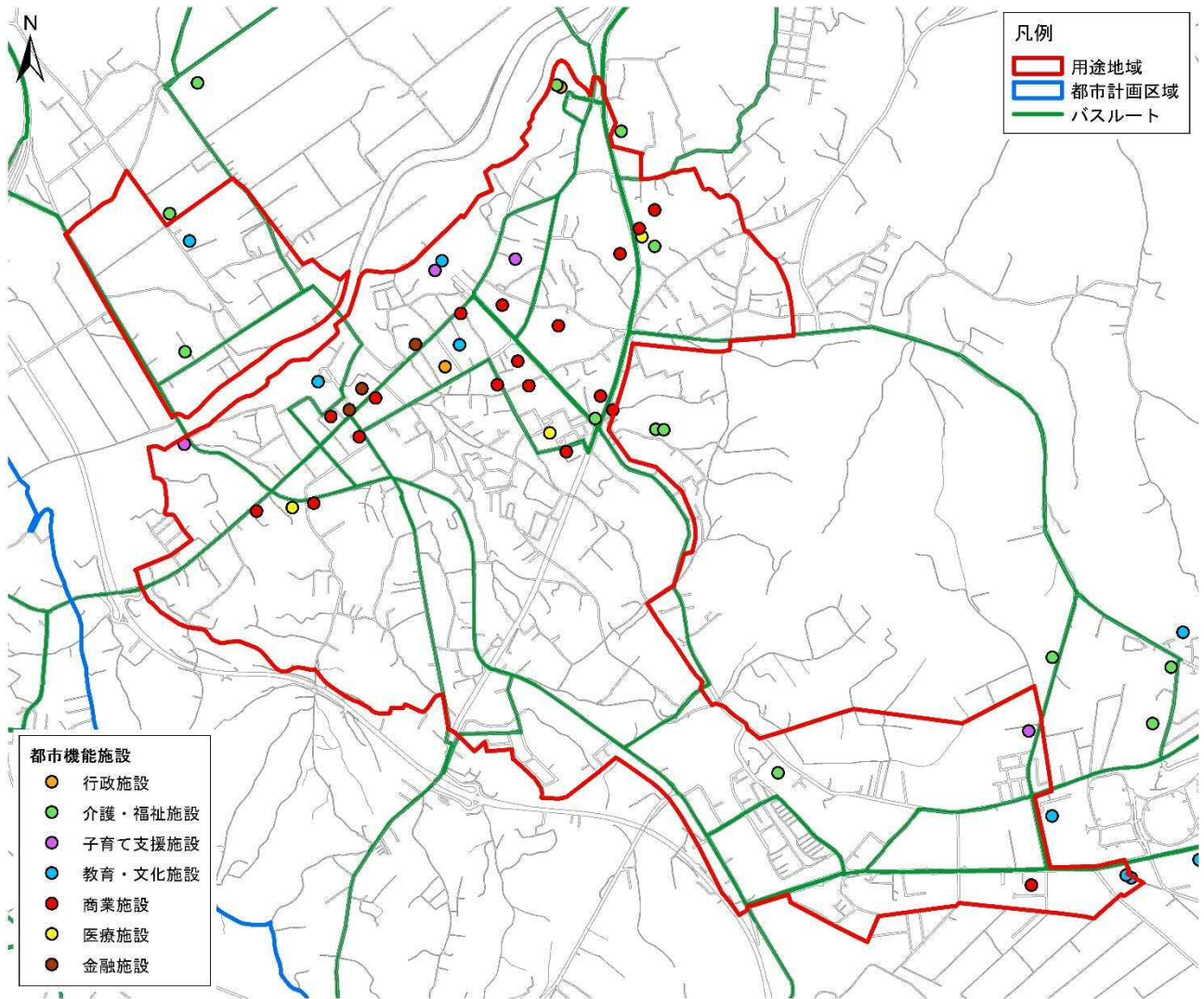


図 公共交通ネットワークと都市機能施設の分布状況（用途地域）

## 4-2 立地適正化計画におけるまちづくりの基本方針

現状及び将来の見通しに基づく課題への対応や、上位計画における基本目標の実現などの観点から、本計画におけるまちづくりの基本方針（計画のターゲット）を以下に設定します。

| 解決すべき課題                    | 策定協議会における意見  |
|----------------------------|--|
| ○市街地の人口密度の維持と<br>少子高齢化への対応 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○若者が少ない</li> <li>○働く場所が少ない</li> <li>○移住定住の魅力不足</li> <li>○空き家が多い</li> <li>○歩道が歩きにくい</li> <li>○高齢者が住みよい町</li> <li>○専門の医療機関が少ない</li> <li>○子どもたちが遊べる場所が少ない</li> </ul> |



### 基本方針1 子どもから大人まで、様々な世代が豊かに暮らせる居住環境づくり

- ・子育て世代や学生などを中心とした若年層が、本町への魅力を感じ、豊かな生活環境の中で子育てすることができる環境づくりを目指します。
- ・高齢者が日常生活において、健康づくりや生きがいづくりなど、充実した生活を過ごすことができ、安全で安心して暮らせる環境づくりを目指します。

| 解決すべき課題                      | 策定協議会における意見   |
|------------------------------|---|
| ○中心地の生活サービス機能の充実と公共交通サービスの維持 | ○商店街の魅力、賑わいが不足<br>○空き店舗が多い<br>○住民が気軽に集まれる場所がない<br>○ひばり野運動公園に来ている人がそのまま帰る<br>○図書館の利用者が少ない<br>○図書館にカフェスペース<br>○目的の場所が集中していない<br>○バス本数が不足<br>○駐車場が不足 |



**基本方針2 アクセスしやすく、町民が日常的に利用できる都市機能が集積した魅力ある中心地づくり**

- ・ 中心商店街エリアは本町の中心地として、日常生活に必要な商業施設や生活サービス施設等の集積を図ります。
- ・ 中心商店街エリアは、日常の買い物や同世代の交流のみならず、世代間交流や町民の活動の場となるよう、本町の中心地の再生を目指します。
- ・ 中心地の魅力により、ひばり野運動公園に来た人が中心地に立ち寄れるようにします。
- ・ 歴史みらいパーク（図書館）は、利用者ニーズに応じた運用を検討し、施設の有効活用を図ります。
- ・ 本町の公共交通ネットワークは、民間路線バス、コミュニティバスを中心に、町民が利用しやすい公共交通ネットワークを形成します。
- ・ 利用者・生活者のニーズに対応した利便性の高い交通施設の整備を図ります。